

(様式第4号)

上田市廃棄物処理審議会 会議概要

1 審議会名	第6回上田市廃棄物処理審議会
2 日時	平成30年 1月25日 午後1時30分から午後3時50分まで
3 会場	上田地域広域連合上田クリーンセンター 4階 会議室
4 出席者	中村彰会長、金子幸恵副会長、井田宗広委員、太田芳枝委員、熊谷唯委員、栗田たか子委員、桑原茂実委員、小林裕美委員、小柳繁弘委員、齊藤ゆり子委員、城田浩靖委員、関川久子委員、西島義一委員、森本英嗣委員
5 市側出席者	山口生活環境部長、峰村資源循環型施設建設推進参事、小坂資源循環型施設建設関連事業課長、両角廃棄物対策課長、岩下リサイクル推進係長、津久井廃棄物指導係長、土屋丸子市民サービス課長、堀内真田市民サービス課長、下村武石市民サービス課長、北島ごみ減量企画室長、鈴木ごみ減量企画係長、田中ごみ減量企画室主任
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	0人 記者 2人
8 会議概要作成年月日	平成30年 1月26日

協 議 事 項 等

1 開 会 (山口生活環境部長)	・資料に沿い、山口生活環境部長から資源循環型施設建設について概要を説明
2 会長あいさつ (中村彰会長)	
3 議事	
(1) ごみ処理基本計画パブリックコメント実施結果について	・資料に沿い、鈴木ごみ減量企画係長からごみ処理基本計画パブリックコメント実施結果について概要を説明
	・以降、質疑応答
(委 員)	食品トレーの店頭回収について、経過を言えば、スーパーと私たち消費者が、容器包装の削減について話し合いをしたことから動き出した。スーパーは容器包装の削減は難しいとしながらも、排出者責任を果たすため店頭回収の取組が実現した。店頭回収したトレーは、トレーメーカーが構築したネットワークによって回収され、選別・洗浄・加工を経て再び衛生的なトレーとして生み出されている。この「トレーからトレーへ」という再生は、環境負荷低減の観点から見て「良いリサイクル」といえる。一方、容器包装ごみとして再生処理する市のルートは、いろいろな容器包装プラスチックが混入することからパレットやプラスチック原料などに再生され係るエネルギー消費も大きく、さらに市も一定の費用負担が生じている。市の分別としては、トレーを容器包装プラごみに入れることについては間違った出し方ではないが、ごみの減量・再資源化による地球環境への負荷低減が目的であるから、目指すはトレーの使用削減や、より良いリサイクルへの誘導・誘発である。このことからトレーの店頭回収を推奨していく必要がある。市の負担も少しは縮減できる。また、店舗によっては、透明の食品トレーを回収しているところもあるので、消費者も情報をキャッチしてほしい。
(委 員)	店舗名は入れず、「買った所に返しましょう」といったフレーズがいいのでは。
(委 員)	トピックスで記載すればいい。
(事務局)	「トレーからトレーへ」は一般的に知られていないので、記載を検討したい。広報うえだや環境うえだでも取り上げたい。
(委 員)	古着回収の拡大について、エコ・サポート 21 で実施しており、武石・丸子地域でも実施しているが、今後の世界情勢が不安材料。上田市でも全ての衣類を回収していた時期があったが、中国等に輸出できなくなり、現在は綿混入 17 品目に限定された。古着回収でも同じことが起きる可能性がある。ウィークエンドリサイクルで古着回収を実施した場合、

不適物混入がチェックできないのではないかと。協力事業者との話し合いが必要。

(事務局) 古着回収の方法等については、エコ・サポート 21 及び協力事業者と一緒に検討していきたい。

(委員) ごみ処理費用について、収集運搬経費と中間処理経費ではどちらが多いか。収集運搬は燃料価格で変動する。

(事務局) 清掃総務費が多くを占めており、内訳として広域連合負担金、特にクリーンセンターの老朽化による修繕費が増えている。また、ごみ処理費では、下室賀最終処分場の延命化による焼却灰リサイクル業務委託費用が増えている。

(委員) ごみの量は年々減っているが、収集運搬経費は変わらないので、1t 当たりの処理費用が増えていく。同様に資源物、特に古紙も減っているが、収集運搬にかかる経費はほとんど変わっていない。今年度市に単価を上げてもらったが、他の事業で穴埋めしているのが現状。さらに単価を上げてもらわないといけない。

(委員) 「ごみ処理事業費が、民間委託に伴う単価の上昇に伴って増加」と表現したらどうか。

(事務局) 表現を検討したい。

- ・ごみ処理基本計画パブリックコメント実施結果(案)について原案どおり承認

(2) ごみ減量アクションプラン(素案)について

- ・資料に沿い、北島ごみ減量企画室長からごみ減量アクションプラン(素案)について概要を説明
- ・以降、質疑応答

(委員) 年号が平成から変わってごみ減量アクションプランを作り直すのであれば、年度の標記は西暦にした方がいいのでは。

(事務局) 「おことわり」で記載している。年号の変更だけでは計画は作り直さない。

(委員) 「目次」のページ数がずれている。また、コラムの「消費期限」と「賞味期限」の説明はもっと丁寧な表記にした方がいい。

(事務局) 修正する。

(委員) 「参考資料 家庭生ごみ処理フローチャート」で、しっかり生ごみを処理しないと鳥獣被害があることも記載するか。

(事務局) 生ごみは鳥獣を引き寄せるエサになるという苦情もあり啓発している。適正処理について記載したい。

(委員) 鳥獣被害のように最悪のパターンを記載すれば、少しでも水切りをしようという方向に動いていくのではないかと。

(委員) いずれにせよ基本は水切り。水分調整によって堆肥の出来が決まる。表の作り方の工夫をしてほしい。

(事務局) 皆さんの指導をいただきながら、イラストを加える等リニューアルしたい。

- ・ごみ減量アクションプラン(素案)について原案どおり承認

(3) 計画策定の答申書(案)について

- ・資料に沿い、鈴木ごみ減量企画係長から計画策定の答申書(案)について概要を説明
- ・資料に沿い、北島ごみ減量企画室長から会長コメント(素々案)について概要を説明

(事務局) 本日の審議結果を受け、内容を整理した上で、ごみ処理基本計画及びごみ減量アクションプランともに素案から案としたい。後日、意見等あれば、平成30年2月8日までにメール又はFAXで事務局までお願いしたい。また、答申にあたり、両計画案をまとめてダイジェスト版(6~8ページ)を作成する。事前に委員の皆さんへ送付する予定。

(委員) 承知。

- ・以降、質疑応答

(委員) 「会長コメント(素々案)」で、「事業者」と「事業所」の標記を統一した方がいい。

(事務局) 事業者に統一する。

(委員) 「会長コメント(素々案)」のごみ減量アクションプランの中で、「新たな取組の検討」

として、「①剪定枝木（えだき）のリサイクルシステムの検討、②不燃ごみの収集頻度の見直し、③古着リサイクルの持続可能な展開への検討、④ごみ排出困難世帯への対応」と大きく記載しているが。

（事務局） 実行するには予算措置等の課題があるが、スケジュールを組んで進めていきたい。

（委員） ごみ減量アクションプランに、資源循環型施設の建設の記載が少ししかない。

（事務局） 資源循環型施設の建設については、上田地域広域連合のごみ処理広域化計画を受けて上田市の役割を果たすことを記している。

（委員） ごみ減量アクションプランに、「枝木のリサイクルシステムの検討」とあるが、「落ち葉」も入るか。

（事務局） 枝木の中に落ち葉も入る。

（事務局） 「会長コメント（素々案）」については、参考にしていただき、各委員の思いを受けとめて、会長の言葉で発していただくことにしたいと思う。

（会長） 委員の皆さんの意見に従う。

（委員） 賛成。

（委員） 学生は細かく分別等できるか。

（委員） 食品トレーに関連して、洗ってプラマーク付プラスチック指定袋に出す人もいれば、ペットボトルを入れる人もいる。また、学生はスーパーやコンビニの利用が多いが、不要なレジ袋をもらう。レジ袋を断ること、食品トレーをリサイクルする意識がそもそも乏しく、ごみのルールを理解しづらい環境にある。

（委員） その大学も ISO を取得した際は、教授も学生もエコ・ハウスに勉強しに来たり、逆にごみ減量アドバイザーが説明をしに行ったりしたが、今は途切れている。以前、資源物回収に立ち会った際、若い人ともコミュニケーションが取れ勉強になったことがあるので、機会を作って意見交換していければいい。

（委員） 長野大学では来年度の新生ガイダンスで講師を依頼する予定。

- ・計画策定の答申書（案）について原案どおり承認
- ・会長コメント（素々案）について会長に一任

（4）審議会日程等について

- ・資料に沿い、鈴木ごみ減量企画係長から今後の審議の予定等について概要を説明

（事務局） 答申は「平成30年2月27日（火）午前10時から11時まで、上田市役所本庁舎3階第1応接室」。打合せをするので午前9時45分に現地集合。正副会長及び希望者に出席をお願いしたい。

（会長） ぜひ多くの委員に出席をお願いしたい。

（5）その他

- ・資料に沿い、田中ごみ減量企画室主任から事業所ごみ処理実態調査（事業所アンケート）結果について概要を説明

（委員） 今回の計画とは関係ないが、「ごみ処理基本計画パブリックコメント実施結果」の意見に対する考え方（案）で、「資源循環型施設では、高効率の発電施設によりごみをエネルギーとして再生し、施設内で利用」とあるが、上田地域広域連合は発電施設を大前提にして話が進んでいるか。ごみの量が減ると発電効率が悪くなり、燃料を投入することになるので、熱利用を第一に考えてもらいたい。特に冬季は熱需要が高いので、総合的に精査してもらいたい。

（事務局） 計画している資源循環型施設の規模であれば発電又は余熱利用ができる。ごみの量が減ることを想定して施設は建設するが、発電するか余熱利用するかは、地元との話し合い次第。例えば、農業でビニールハウスに余熱を使いたいということであれば、余熱利用の比重が大きくなる。なお、多くの先進施設は発電となっている。

（委員） 両計画共通で、上田市は超高齢化社会ではなく「超高齢社会」ではないか。

- (事務局) 関係する計画を再度確認する。
- (委員) 先日、事業系ごみ減量マニュアルを上小食品衛生協会の会員に配布したが、事業で忙しい中分別するのは大変だが、ごみの処理の見直しを検討していきたい。
- (委員) ごみ減量アドバイザーとして、草の根のように少しずつ行き渡る活動をしているつもりだが、伝わっていないことがたくさんある。いい計画ができそうだが、市民の皆さんに理解してもらうよう現場でどのように伝えるかが課題。
- (委員) 勉強するいい機会になった。自分の子どもについて、小学校低学年の頃は、ストローの袋はプラマーク付プラスチック指定袋でいいが、ストローはだめという会話を子ども同士でしていたが、中学生になった今はコンビニに行く度にレジ袋をもらい、その袋をごみ袋にして分別もしないでごみを入れている。まだまだ子ども達に伝えなければいけないことがたくさんあるし、自分の生活も見直していかないといけないと感じた。
- (事務局) 当たり前のことを分からない人が多い。色々なことを考えて計画を作ったが、配布してもどのくらいの市民が真剣に読んでくれるか不安。できるだけ多くの人に読んでもらい、当たり前のことを当たり前と思うようになってほしい。
- (委員) 「会長コメント(素々案)」について、会長の意見ではなく行政側よりになっている。
- (事務局) 委員の皆さんの意見を踏まえ会長のコメントとしたいと思っており、素々案として提示したもの。
- (会長) 皆さんの思いをそのままぶつけない。
- (委員) 地元にはスーパーが一つだけで、地域みんなで積極的に利用している。食品トレーについて、透明トレーもいいのか聞いてみたい。
- (委員) スーパーはお客さんが希望を出すと動いてくれるので、ぜひ伝えてほしい
- (委員) 資源循環型施設について、収集車が通勤・通学の時間帯に集中すると地元の方が不安に思っているという新聞記事を読んだが、集中する場所ではないし、時間帯も様々。それぞれの地域からの収集ルートや時間帯を資料として出せばいいのでは。
- (事務局) 平成 28 年度実績で、上田クリーンセンターの一日あたりの搬入車両は 125 台。それが 190 台程度になると見込んでいる。もし一極集中となれば渋滞する恐れがあるが、各市町村とも週 2 日のごみ収集、また、時間帯も変わってくることから、さほど問題ないと思われる。環境アセスを踏まえ、問題のないよう具体的に計画していきたい。
- (委員) 不安材料を除いていかないと前進しないので、よろしく願いしたい。

4 開 会 (山口生活環境部長)